

ふ る さ と お も し ろ 統 計 学

ボランティア活動

## 地域密着型の活動増加

「ボランティア」よく耳にする言葉ですが、社会をよりよくしていくため、自分の技能と時間を自主的に無報酬で提供する人たちがいます。活動に対する関心は、阪神・淡路大震災以後、特に高まっています。震災のときは、若者をはじめ多くのボランティアの方々が活動している姿をテレビなどで見て、すがすがしい気持ちになった方も多いのではないのでしょうか。

さて、総務庁が行った平成8年社会生活基本調査結果によると、全国で、過去1年間に活動を行った人は、26,383,000人で、15歳以上人口に占める割合（行動者率）は、25.3%となっており、これは、実に4人に1人の割合で活動していることになります。本県においては、66万人が活動し、行動者率は、27.1%であり、これは、全国と比べて1.8ポイント高くなっています。活動の内容では地域社会や居住地域での道路や公園の清掃、交通安全運動などの身近な活動が多くを占めています。

す。なかでも、月1日以上活動した人（継続的行動者）は全国ベースで昭和61年3.8%、平成3年4.0%、8年4.2%と毎回増えており、熱心な人が増えていると言えるのではないのでしょうか。

また、30歳後半の女性の行動者率が高く、特に、児童・老人・障害者を対象とした活動については、男性の約1.7倍にもなり、際だって高くなっています。

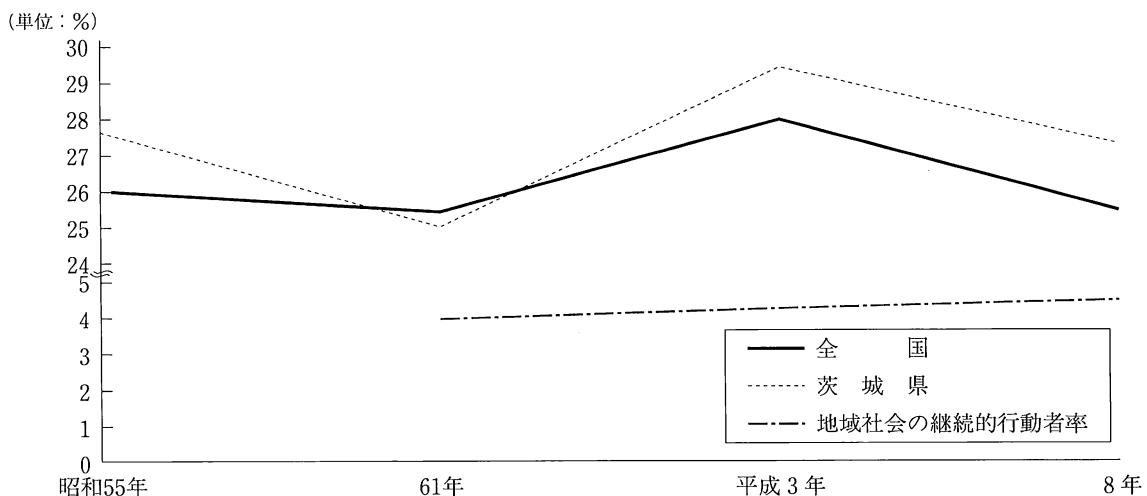
活動をした人の多くがやって良かったという感想を持っています。活動そのものに対する満足感にプラスして自分自身が成長できることもボランティア活動の魅力ではないのでしょうか。

特に、最近では、企業などでもボランティア休暇制度を導入するなど積極的に活動を支援し、社会貢献に対し注目が集まっています。

皆さんも、ちょっと勇気を出し活動に参加してみませんか。

（県統計課）

ボランティアの行動者率と地域社会・居住地域における継続的行動者率の推移



（総務庁：社会生活基本調査結果より）

※「ふるさとおもしろ統計学」は隔週金曜日、茨城新聞に掲載されています。

ふるさとおもしろ統計学

日本酒党? ビール党?

## お花見に欠かせない酒

お花見シーズンの到来です。偕楽園の梅はピークを過ぎましたが、連日多くの人出でにぎわいました。また、桜の開花予想も発表されました。(水戸では4月1日が開花予想日になっています。) 家族や職場の仲間でお花見を予定されている方も多いのではないのでしょうか。

さて、お花見の座を盛り上げるのに欠かせない物の一つとして、お酒があげられるでしょう。一口にお酒と言っても、いろいろな種類があり人それぞれに好みもあるようです。

では、本県民はどのようなお酒を好んで飲んでいるのでしょうか。平成8年家計調査(総務庁)の結果によると、年間の酒類の購入額は一世帯当たり43,124円となっています。この内訳をみると、なんとといってもビールがダントツで22,273円、全体の約52%を占め、次いで清酒が10,756円で約25%を占めています。以下、国産ウイスキー

(6%),ぶどう酒,焼酎,輸入ウイスキー(各4%)の順となっています。

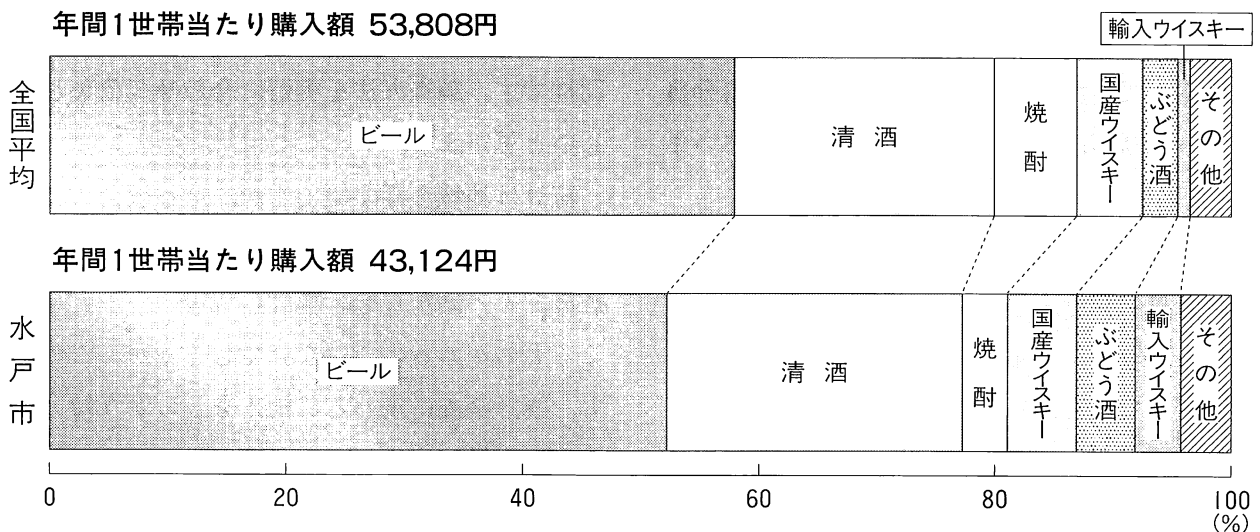
この割合を全国平均と比べてみると、ビールの割合は全国平均より6ポイント下回っているのに対し、清酒の割合は3ポイント上回っており、県民の日本酒好きがうかがえます。

ちなみに、輸入ウイスキーの購入額をみると、全国平均の3.3倍で、日本一の購入額となっています。また、ぶどう酒の購入額も全国平均を上回り洋酒系が好みのおしゃれな人も多いようです。

酒は昔から「百薬の長」といわれ、健康にもよく、人間関係を和ませてくれる潤滑油にもなります。適量を守って楽しいお花見をしてみませんか。

※全国平均とは、47年都道府県庁所在地、川崎市、北九州市の平均。

### 平成8年酒類の購入額割合



平成8年家計調査(総務庁)より

※「ふるさとおもしろ統計学」は隔週金曜日、茨城新聞に掲載されています。

## 統計事務に携わって

土浦市総務部総務課 主幹 石 神 浩 之

統計の仕事を担当して、一年になります。

3月に茨城県農業基本調査の提出も済み、平成9年度の調査は無事に終わりました。

入所して10年以上経っていても、統計では一年生の私がどうしたらよいかと思ったのは、説明会での説明でした。今まで、人前で話をした経験のない私は、係の人に手伝ってもらいリハーサルしてから説明会に臨みました。すると、思いの外上手くいきホッとしました。

それでも、12月には調査事務が重なったため、十分な勉強をせず工業統計調査説明会の当日を迎えたので、説明しながらも、このような説明で理解してもらえるかどうか不安な気持ちで説明したこともありました。

また、住宅統計調査のときは、指導員さんから提出された単位区設定図を見て、説明会の説明で不足していたところを反省させられました。

統計調査は、覚えたことも調査が終わると、また次のことを覚えるという繰り返しですが、一生懸命にやってくれる調査員さんを見ると、自分自身がしっかり理解しなくてはいけないなと思います。

説明会の最後に質疑の時間を設けていましたが、調査員のSさんは必ず質問をし、調査が始まってからも質問されます。自分で「調査の手引」をよく読んでから、ある程度自分の考えを持って質問されるらしいのですが、提出される調査票は完璧で、分からない事は質問をして十分な理解の上で調査にあたってもらえることは有難いことだ

と思っています。

就業構造基本調査のとき、Sさんから質問され、そこまでは大変ですからいいのではと思ったのですが、なかなか納得されないSさんを見て、私より精度の高い統計を目指さなければならないと教えられました。

調査員のIさんは、調査員歴20年以上のベテランです。そのIさんから全国物価統計調査のとき、調査に協力しない店に対しても、協力してもらえよう対応しないと、調査に協力しなくてもいいのかと思われてしまい、それが他の店に伝わっていくと調査がやり難くなってしまおうと言われました。調査拒否の人に協力してもらうのは本当に大変なことですが、調査員さんが少しでも調査しやすいように頑張ろうと思います。

そのIさんも、体調が悪く現在入院中です。調査員さんは高齢者が多いため、この一年で入院されたり、亡くなられた方が何人かいます。調査員不足と高齢化は、土浦市においても他の市町村と同様です。調査方法を実情に合わせて改善してほしいと思います。

統計は地域を写す鏡ですが、それはその結果として出される調査票だけでなく、苦情の電話、調査員さんの話からも、統計の現場にいると見えてくるものがあるのではないのでしょうか。これからも、統計調査に携わる心構えをしっかりと持っていたいと思います。

【新着資料案内】【新着資料案内】

この資料は、平成10年2月中に行政情報センター・統計資料コーナーに到着した主なものです。ご利用ください。  
行政情報センター 本庁舎地下1階 TEL 029-221-8111 (内線 2238・2239)

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
<b>中央省庁関係</b>		<b>県内市町村等関係</b>	
青少年白書 平成9年度版	総務庁	環境影響評価書	日立市
全国消費実態調査 平成6年 地域別統計表その1,その2	〃	第3次鹿行地方広域市町村圏計画(後記)	鹿行地方広域事務組合
日本標準職業分類 平成9年12月改訂	〃	<b>会社・公社・団体等</b>	
社会福祉施設等調査報告 平成8年	厚生省	地方自治関係雑誌文献索引 1997年版 件名編	(財)特別区資料室
社会福祉行政業務報告 平成8年度	〃		
生命表 第18回	〃		
米及び麦類の生産費 平成8年度	農林水産省		
農業経営部門別統計 平成7年 第1～3分冊	〃		
賃金引上げ等の実態に関する調査報告 平成9年	労働省		
働く女性の実情 平成9年版	〃		
労働統計年報 第47回 平成6年	〃		
<b>茨城県関係</b>			
県政モニターの声 平成8年度	広報広聴課		
障害者福祉の手引 1997	障害福祉課		
衛生行政の概要 平成9年度版	医務課		
大規模小売店舗実態調査 平成9年度	商業流通課		
茨城県の下水道	下水道課		

**編集後記**

今月号から前任者を引き継ぎ、本書を担当することになりました。

作成にあたっては、関係者の皆様に御迷惑をおかけするかもしれませんが、何卒よろしくお願ひいたします。(KM)

**統計いばらき** 1998.4 No.528

平成10年4月発行

編集兼発行/茨城県企画部統計課

茨城県統計協会

〒310-8555 水戸市三の丸1丁目5番38号

電話 029-221-8111(内線)2651・2652

029-221-5505(直通)

FAX 029-228-0961

印刷所/富士オフセット印刷株式会社